

1 総 括

1-1 業務の概要

鹿児島県工業技術センターは、県内企業の技術力向上を支援する県内唯一の工業系公設試験研究機関である。本県における「工業技術の拠りどころ」として、県内産業の振興を図るため、工業技術に関する試験研究、調査、指導及び研修を行っている。技術支援と研究開発を基本業務とし、その業務運営にあたっては、「企業ニーズに基づく技術支援」、「技術シーズの橋渡しによる県内産業の振興」、「多様な連携によるものづくり支援」の3つを業務の柱として県内企業の活動を支援することを基本方針とする中期業務計画に基づき、業務を計画的に実施している。令和5年度に行った主な業務は次のとおりである。

- (1) 試験研究業務では、地域資源の高度利用、生産・加工システム開発、バイオ・食品開発、環境・生活・デザイン技術開発の各分野に関する主要研究13テーマ、基盤研究として7テーマを実施した。また、企業や大学等との共同研究10テーマと公募提案型研究を含む受託研究15テーマを実施した。
- (2) 技術支援業務では、企業活動に伴う様々な技術課題の解決を図るため、技術相談・指導、依頼分析・試験等、設備使用（設備・機器の利用開放）を実施し、工業技術に関する講習会・研修会を開催した。
- (3) 人材育成では、企業の技術者や研究者等で構成する各種研究会を運営し、研修生等として企業の技術者等を申請により受け入れる技術指導と、大学等からの申請による学生指導を実施した。
- (4) 企業への業務紹介による利用促進と業界・企業ニーズの収集・把握を目的として、企業訪問を実施した。

1-2 組織と業務

庶 務 部

- (1) 庶務一般に関すること。
- (2) 他部の所管に属しないこと。

企画支援部

- (1) 試験研究及び技術指導の企画及び総合調整に関すること。
- (2) 工業技術に関する情報の調査及び提供に関すること。
- (3) 国、地方公共団体、大学、企業等との連絡調整に関すること。
- (4) 工業デザイン及び工芸品の開発研究、調査及び技術指導に関すること。
- (5) 工業デザイン及び工芸品に関し、依頼に応じて行う分析及び試験に関すること。

食 品 ・ 化 学 部

- (1) 食品工業、化学工業、環境工業及び繊維工業の試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (2) 食品工業、化学工業、環境工業及び繊維工業に関し、依頼に応じて行う分析、試験及び加工に関すること。

生産技術部

- (1) 機械工業、電子工業及び金属工業の試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (2) 機械工業、電子工業及び金属工業に関し、依頼に応じて行う分析、試験、検査測定及び加工に関すること。

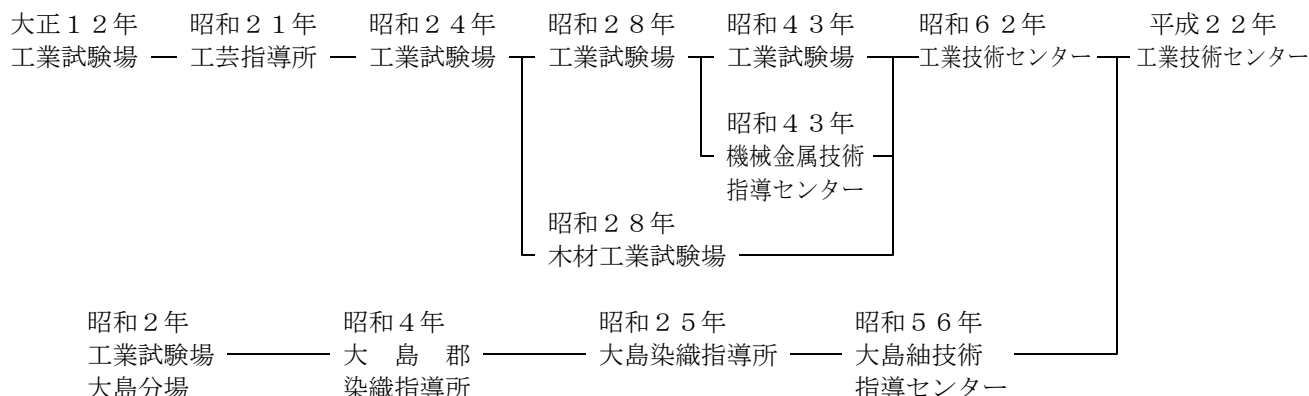
地域資源部

- (1) 木材、竹材等の地域資源の試験研究、調査及び技術指導に関すること（他部の所管に属するものを除く）。
- (2) 木材、竹材等の地域資源に関し、依頼に応じて行う分析、試験及び加工に関すること（他部の所管に属するものを除く）。
- (3) シラスの試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (4) シラスに関し、依頼に応じて行う分析、試験及び加工に関すること。

（シラス研究開発室）

地域資源部の項の第3号及び第4号に掲げる事務を分掌する。

1 - 3 沿 革

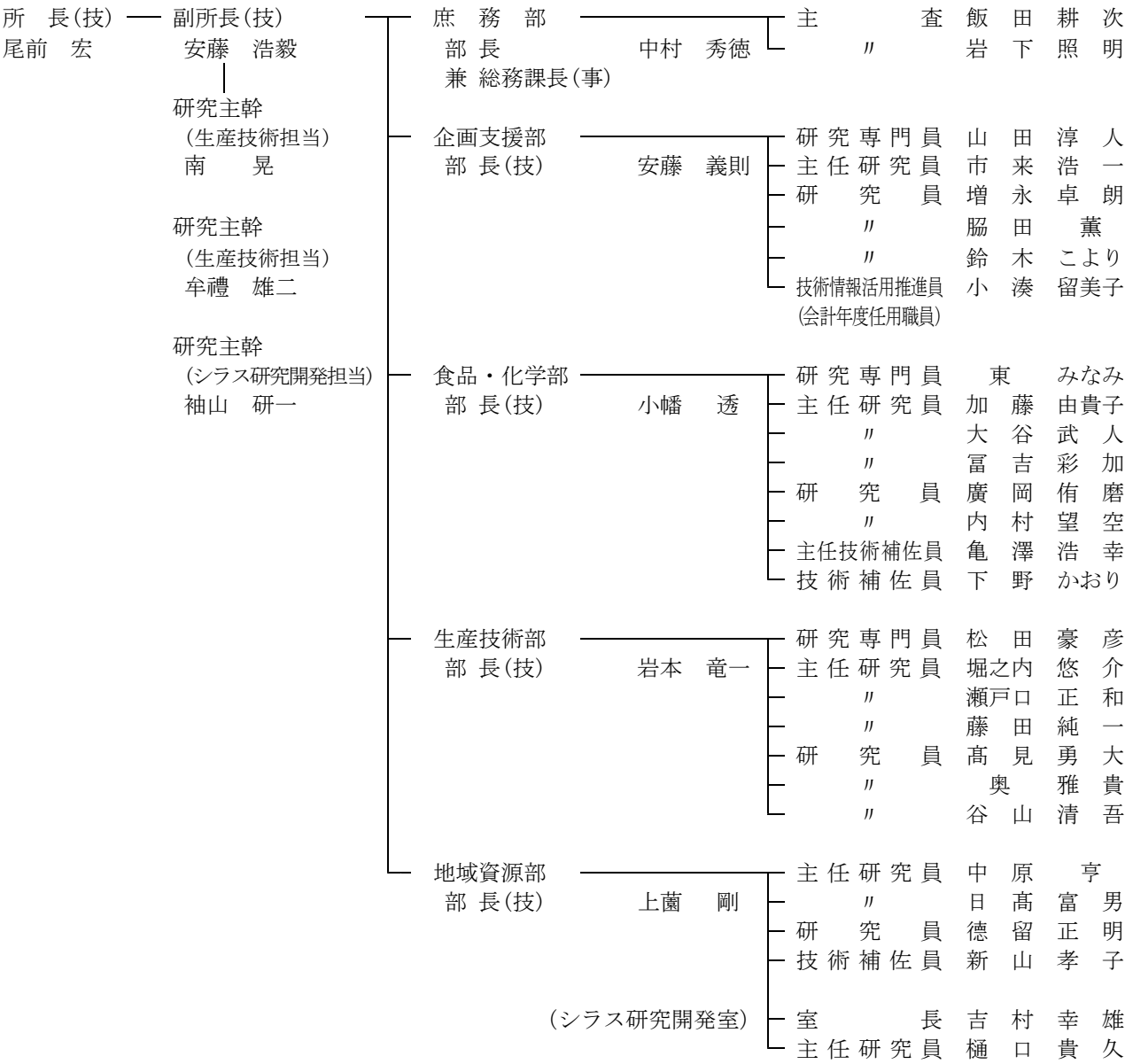


大正12年 4月	鹿児島市高麗町に工業試験場を設立し、染色、機織の2部を設置
昭和 2年 4月	工業試験場大島分場を設置し、庶務、図案、原料、染織の4部で発足
昭和 4年 6月	鹿児島市原良町に移転
昭和 4年11月	原料糸検査、醸造、玉糸製糸、撚糸、図案の各部を増設
昭和15年 4月	工業試験場大島分場を大島郡染織指導所と改称し、庶務、原料、染織、図案の4部に改編
昭和17年 1月	窯業部を増設
昭和21年 4月	木工、化学部を増設
昭和21年12月	工業試験場に木工養成所を併設
昭和23年 1月	工芸指導所と改称し、庶務、化学、窯業及び工芸振興の4部に改編
昭和24年 4月	竹工部を増設
昭和25年 6月	工業試験場と改称し、庶務、化学、及び工芸（木工、竹工、窯業）に改編
昭和26年 4月	大島郡染織指導所を大島染織指導所と改称
昭和27年 4月	発酵工業部を新設
昭和28年 4月	工芸部より木工係、竹工係を分離して木竹工部を新設、また揖宿郡指宿町（現 指宿市）に指宿分場を設置
昭和28年12月	大島染織指導所は琉球政府経済局の所管へ
昭和34年11月	木竹工部と木工養成所を工業試験場より分離して木材工業試験場を設置
昭和38年 6月	奄美群島が日本へ復帰、鹿児島県大島染織指導所へ
昭和39年 4月	鹿児島市武町に移転
昭和43年 2月	指宿分場を廃止
昭和43年 8月	工芸部を窯業部に改め、化学部に機械金属班を設置
昭和48年 3月	工業試験場の新庁舎竣工
昭和56年 4月	機械金属班を分離して鹿児島市宇宿町に機械金属技術指導センターを設立
昭和62年12月	鹿児島市東開町に木材工業試験場を移転
平成 8年 4月	大島染織指導所を大島紬技術指導センターと改称するとともに総務課、機織研究室、図案研究室、染色化学研究室の1課、3室体制とする。
平成 9年 3月	工業試験場、機械金属技術指導センター及び木材工業試験場を再編・統合し、現住所に工業技術センターを設立、庶務、企画情報(室)、デザイン開発(室)、食品工業、化学、窯業、機械金属、電子、木材工業の7部2室に改編
平成 9年12月	組織改編により庶務、企画情報、デザイン・工芸、食品工業、化学、素材開発、機械技術、電子、木材工業の9部制発足
平成10年 7月	知的所有権センター開所
平成13年 4月	システム技術開発センター開所
平成22年 4月	R&D支援センター開所
平成23年 4月	化学部を化学・環境部に改編
平成26年 4月	大島紬技術指導センターを統合し、大島紬部を設置
平成29年 3月	組織改編により、庶務部、企画支援部、食品・化学部、生産技術部、地域資源部、シラス研究開発室、大島紬部の6部1室に改編
令和 4年 3月	大島紬部を廃止、企画支援部奄美市駐在とし、5部1室に改編
	企画支援部奄美市駐在を廃止
	電磁環境測定棟竣工

1-4 機 構

1-4-1 組織と職員配置

(令和5年4月1日現在)



1-4-2 職員現況表

(令和5年4月1日現在)

区 分	事務職	技術職	現業職	計	非常勤職員	備 考
庶務部	3	2		5		所長、副所長を含む
企画支援部		6		6	1	
食品・化学部		7	2	9		
生産技術部		10		10		研究主幹を含む
地域資源部		4	1	5		
シラス研究開発室		3		3		研究主幹を含む
計	3	32	3	38	1	

1-4-3 人事異動

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

発令年月日	氏 名	新 任	旧 任	備 考
R 5. 4. 1	安藤 浩毅	副所長	商工労働水産部参事	転 入
	飯田 耕次	庶務部主査	鹿児島地域振興局建設部主査	
	増永 卓朗	企画支援部研究員	産業立地課工業技師	
	竹下 浩平	始良・伊佐地域振興局建設部建設総務課専門員	庶務部専門員	転 出
	松永 一彦	商工労働水産部参事	企画支援部長	
	栗毛野裕太	産業立地課工業技師	生産技術部研究員	
	藤田 純一	生産技術部主任研究員	企画支援部研究専門員	
	日高 富男	地域資源部主任研究員	地域資源部研究専門員	再 任 用
	新山 孝子	地域資源部技術補佐員	地域資源部主任技術補佐員	
	鈴木こより	企画支援部研究員		
	内村 望空	食品・化学部研究員		新規採用
R 6. 3. 31	瀬戸口正和		生産技術部主任研究員	
	新山 孝子		地域資源部技術補佐員	退 職

1－5 規 模

1－5－1 土地・建物

土地面積 50,256.05㎡
建物延べ面積 16,850.28㎡

区 分		面 積 (単位㎡)	内			訳 考
			階別	面積(単位㎡)	備	
管 理 研 究 棟 鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 造 地 下 1 階 地 上 3 階		9,790.29	地階	911.49	機械室，中央監視盤室 他	
			1 階	2,884.14	庶務部，企画支援部，会議室 研究員室，ショールーム 他	
			2 階	3,097.77	食品・化学部，生産技術部 シラス研究開発室，機器分析室	
			3 階	2,540.82	企画支援部，生産技術部，地域資源部 R & D 支援センター	
			棟屋	356.07	機械室	
実 験 棟 鉄 骨 造 平 屋 建	食品・化学実験棟	4,789.54	1 階	656.10	食品・化学部	
	窯 業 実 験 棟		1 階	951.35	生産技術部，シラス研究開発室	
	機 械 金 属 実 験 棟		1 階	1,640.25	生産技術部	
	木 材 工 業 実 験 棟		1 階	1,541.84	企画支援部，地域資源部	
システム技術開発センター 木 造(一部鉄筋コンクリート造) 平 屋 建		1,058.51	1 階	1,058.51	産学官共同研究室 実験シミュレーション室 制御測定室，試作研究室	
電 磁 環 境 測 定 棟 木造平屋建		270.11	1 階	270.11	電波暗室，EMC測定室，シールド室	
そ の 他 付 属 棟		941.83		941.83	浄化槽機械室，車庫 他	

1－5－2 配置図



1-6 決算

1-6-1 歳入

(単位：円)

款	項	目	収 入 額	備 考
使用料及び手数料	使 用 料	商 工 使 用 料	8,867,382	うち設備使用料8,799,990
	手 数 料	商 工 手 数 料	7,188,580	
			小 計	16,055,962
財 産 収 入	財 産 売 払 収 入	物 品 売 払 収 入	20,000	
		生 産 物 売 払 収 入	1,031,530	
		小 計	1,051,530	
諸 収 入	雑 入	受 託 事 業 収 入	11,270,563	
		そ の 他 収 入	288,389	
		小 計	12,008,952	
合 計			29,116,444	(工技センター受入分のみ)

1-6-2 歳出

(単位：円)

款	項	目	支 出 額	備 考
農 林 水 産 業 費	林 業 費	林業振興指導費	5,260	森林経営課
		小 計	5,260	
商 工 費	商 業 費	商業総務費	2,493,383	商工政策課
	工 鉱 業 費	中小企業振興費	335,631	産業立地課
		工業技術センター費	180,963,695	産業立地課（繰越含む）
		小 計	183,792,709	
合 計			183,797,969	(工技センター執行分のみ)

1-6-3 補助事業等

(単位：千円)

補 助 事 業 等 の 名 称	事 業 名	事業費	補助率	補助額	交付決定日	備 考
令和5年度単式蒸留焼酎に係る委託調査研究(日本酒造組合中央会)	芋焼酎の品質向上に関する研究	1,500	1/1	1,500	R5. 4. 1	
令和5年度農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究	さとうきびの多回株出機械化一貫体系及び省力製糖技術の確立	1,600	1/1	1,600	R5. 4. 1	
経済産業省成長型中小企業等研究開発支援事業 (Go-Tech事業)	尿路感染症予防サプリメント素材「1-デオキシマンノース」の生産技術開発と機能性評価	2,210	1/1	2,210	R5.10.23	
新産業創出ネットワーク事業研究開発支援補助金(KISC)	サンゴも肌も守りたい。環境にも人にも優しい、シルク配合日焼け止めの研究開発	286	1/1	286	R5. 9. 1	
(公社)鹿児島県糖業振興協会技術開発研究事業	清浄汁～結晶化の一連の関連性調査研究	300	1/1	300	R5. 4. 1	
(公財)サンケイ科学振興財団科学研究助成	3次元プリンターを用いた赤潮防除システム用ファインバブル発生ノズルの試作	200	1/1	200	R5. 7. 7	
(公財)米盛誠心育成会 研究助成	3次元プリンターを用いた赤潮防除システム用スケールアップ対応型ファインバブル発生ノズルの試作	300	1/1	300	R5. 9.28	

1-6-4 検査・監査等

種 別	実施年月日	対 象 期 間	実 施 者 職・氏 名	備 考
職員監査	令和5年11月1日	令和4年度	監査委員事務局 三谷 志延, 濱田 広介 迫 政文	
委員監査	令和6年1月10日	令和4年度	監査委員 大藁 豊, 前野 義春 監査委員事務局 監査第二課 志茂 伸俊 濱田 広介	

1-7 会議等への参加

(件数)

部 名 項 目	庶 [※] 務 部	企 画 支 援 部	食 品 ・ 化 学 部	生 産 技 術 部	地 域 資 源 部	シ ラ ス 研 究 開 発 室	合 計
試験研究機関連絡会議	8	10	20	5	4	2	49
学 会	0	0	4	1	2	3	10
研 究 会 ・ 講 習 会	5	9	24	8	9	1	56
そ の 他	6	5	11	1	0	0	23

※ 庶務部の件数は所長、副所長を含む、企画支援部の件数は研究主幹を含む。

1-8 設 備

令和5年度に整備した機器（重要物品）は、以下のとおりである（5機種）。

部 名	機 器 名	型 式	メ ー カ ー 名	備 考
食品・化学部	繊維引張試験機	34TM-5	インストロン	JKA補
生産技術部	ビッカース硬さ試験機	WILSON VH1150	ITWジャパン(株)	JKA補
生産技術部	NC旋盤	TAC-510	(株)滝沢鉄工所	JKA補
地域資源部	電動フォークリフト	8FB25	トヨタエルアンドエフ鹿児島(株)	国 補
シラス研究開発室	全自動圧縮試験機	CONCRETE2000X	(株)島津製作所	JKA補

(注) 国 補 : 電源立地地域対策交付金により購入したもの

JKA補 : JKA補助金（(公財)JKAからの交付）により購入したもの

